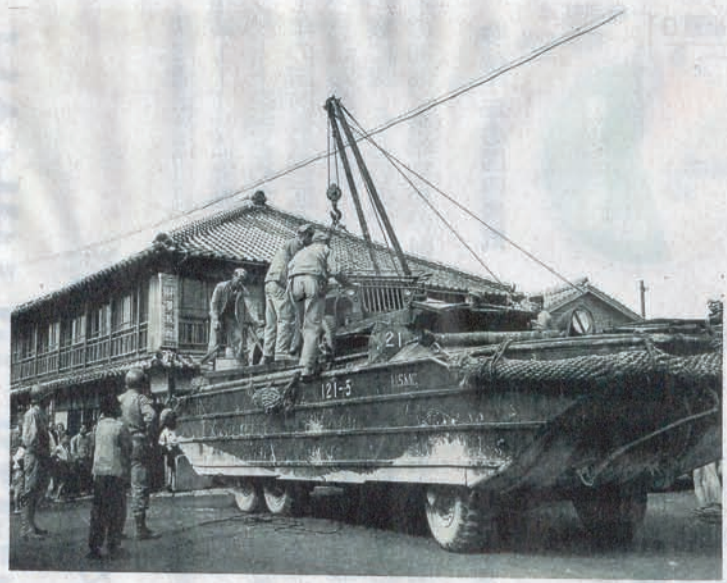


① 南島原市口之津町で車両を積み水陸両用車「ダック」1945年10月



② 海上から見た天草海軍航空隊の基地 1945年10月

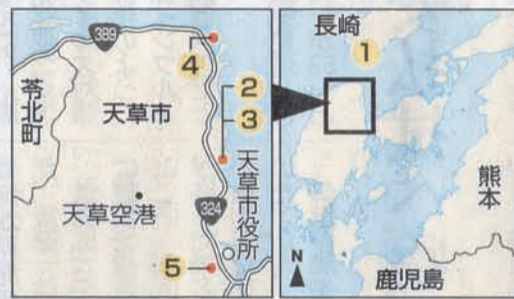


武装解除 島原から天草へ

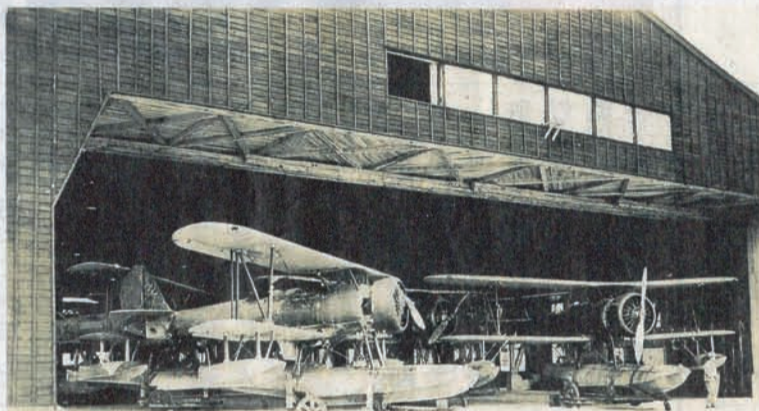
終戦後、日本に進駐した米軍が撮影した熊本県関連の写真202枚が、新たに見つかった。写真を調査した市民団体くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表の高谷和生さんに解説してもらい、一部を紹介していく。初回は米軍が島原半島から海を渡り、日本軍の武装解除のため兵器や飛行機を接收する過程がうかがえる天草関連の写真。(熊川果穂)

米軍写真から

くまもと
戦後
77年



③ 天草海軍航空隊の格納庫 1945年10月18日



写真①は、南島原市口之津町で、連合軍のノルマンディー上陸作戦にも使われた水陸両用車「ダック」にジープ型の車を積み込み、天草下島へ渡る準備をしている場面。地元の林田旅館の前に波止場があったという。高谷さんは「地続きの場合、熊本へは長崎から大牟田経由の陸路で進駐しているが、天草へは島原半島から海路で向かったことが分かる」と説明する。

写真②は、天草市佐伊津町にあった天草海軍航空隊の基地を海上から撮影している。正面に水上機の離着水の際に利用する斜路、後方に格納庫4棟、左端には戦闘指揮所も確認できる。高谷さんは「ダックで渡海している途中に撮影した」とみる。米軍が海路で天草へ進駐したことを明確に示す写真という。

写真③は、天草海軍航空隊の格納庫。九五式水上偵察機4機が並んでいる。太平洋戦争で広く使用され、終戦直前の沖縄戦では特攻機にも使われた。尾翼には天草航空隊への所属を示す「アマー22」の文字が、うっすらと残る。高谷さんは「天草からは零式水上観測機が特攻に出撃した記録がある。この機体も特攻機にするために所属を消したのだろう」と推測する。

写真④は、天草下島北端の鬼池港の海岸。戦時標準船が停泊している。高谷さんは「戦時標準船は、戦時中に物資や人員の海上輸送を増強するために、構造を簡略化して大量生産された船。天草の桶浦地区や鬼池地区で終戦直前まで木造船が数多く製造されていた」と解説する。

写真⑤は、天草市中央新町の町並み。苓北町方面から銀天街に向かって撮影している。町山口川に架かる本渡橋も確認できる。高谷さんによると天草では終戦後、米軍の機銃掃射の心配がなくなったため、多くの漁船が沖まで出て、食料事情はよくなったという。「終戦から2カ月経過し、市民も落ち着きを取り戻し笑顔が見られる。米軍は、このような生活の様子も数多く写していたはずだ」。随時掲載 ※写真はいずれも長崎平和推進協会提供・くまもと戦争遺跡ネットワーク調査。

④ 戦時標準船が停泊する鬼池港 1945年10月



⑤ 市民が行き交う天草市中央新町の町並み 撮影年月は不明

